

(議長)

休憩を閉じて再開致します。

飯田議員の一般質問が終わりましたので、次に、萩原議員の発言を許可致します。

「萩原議員」

議長。

(議長)

「萩原議員」。

「萩原議員」

はい。それでは私の方から、町長に対して2項目、そして教育長に対して1項目の質問を致します。それでは早速質問に参ります。

若者、まちづくりの若者の参画についてでございます。

まちづくりにおいて、行政として町民の声に耳を傾けることは言うまでもなく重要なものと認識しております。地方創生が叫ばれる中、江差町においても、現在、人口ビジョンと地域版総合戦略の策定に取り組んでいると思いますが、これからのまちづくりは若者が中心となり、意見等を取り入れ進めるべきと私は考えております。数年前までは我が町にも青年会議所、JCですね、があり、20歳から40歳の若者が色々な事業を行い、まちづくりに貢献してきました。そのひとつが、北前船開港事業だったのではないのでしょうか。若者の発想が町民や日本中を巻き込みました。

そこで、お聞き致します。若者が交流し、また活動するための基盤整備について、どう考えているのか。

また、若い世代の耳を傾ける機会を設けるべきと考えているか、考えていますか、いかがか、お聞き致します。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

萩原議員のご質問にお答え致します。

少子高齢化や過疎化の振興等、本町を取り巻く環境は厳しさを増している中であって、昨年若くは若い世代の方々が職域や年代の垣根を越えて団体を結成し、様々な場面で地域の活性化に取り組んでいることは、議員もご承知のことと思います。町ではこのように若者が主体的に、ま

た継続的に活動するための仕組みをしっかりと構築するため、本年度、地方創生先行型交付金を活用して、若者交流促進事業を予算付けしたところであり、現在、団体と事業内容に関して意見交換を行っております。いずれに致しましても、若い世代の方々が自主的に集い、意見を出し合い、活動する場面を町としても積極的に支援していきたいと考えておりますので、ご理解宜しくお願い致します。

次に、若い世代の声に耳を傾ける機会を設けるべきとのご質問であります。まちづくりを進めていく中で、町民の声に耳を傾けることは、私の政治姿勢の根幹であり、大変重要なものと認識しており、昨年から実施しているまちづくり懇話会はそれらを具現化したものであります。地方創生が叫ばれる中、現在、本町において2060年までの人口ビジョンと向こう5年の総合戦略の策定作業を行っておりますが、次代を担う若者の意見は大変貴重なものと認識しているところであり、早い時期にまちづくり懇話会という形で意見交換が出来る環境を整えていきたいと思っておりますので、ご理解願いたいと思っております。

「萩原議員」

議長。

(議長)

「萩原議員」。

「萩原議員」

ある講演で、講師がですね、言葉が悪いんですけども、まちづくりには若者、よそ者、馬鹿者が必要だと言っておりました。若者には斬新なアイデアがあります。つい先日もたまたまあ姥神の渡御祭のお祭りの若い人たちと酒の席ではありますけれども、色々話した中でやはりお祭りに対してやっぱり色々なやっぱり斬新なアイデアがありました。また、馬鹿者とは、自分のことはさておき、地域のために尽力する人、私も青年会議所に入っておりましたけれども、やっぱり全国各地にやっぱり仕事を持ちながらではあります。本当に地域のために一所懸命する人がたくさん私も見てきましたので、これにもまたやっぱり共感致します。また、よそ者とはその土地の人である場合、やっぱり多少のしがらみがありますので、やっぱり思い切った手が打てないということで必要だと言われております。

そのよそ者という言葉は悪いですが、に関してやっぱり私はあの7月から地域おこし協力隊が来るということで大変期待をしておりましたが、その後この配置についてはどうなっているのかお聞き致します。

(議長)

「まちづくり推進課長」。

### 「まちづくり推進課長」

地域おこし協力隊の関係についてのご質問でございます。

4月から地域おこし協力隊の応募をして参りました。実はあの景気の回復に伴ってですね、都市部の方での就職が一定程度安定したということで、全国の自治体で地域おこし協力隊の応募については苦戦を強いられております。この間、江差町も一般社団法人の地域おこし協力隊のホームページで募集を行ってきましたところ、先般、札幌在住の男性の方が観光振興で江差にあの力を貸したいというか、江差で働きたいという方がお見えになりまして、実は9月に、先週ですか、町長、あと担当課長含めて面接を行って参りました。面接の結果もいい結果だったということを知っておりますので、準備が整い次第、追分観光課の方に配置して、観光振興の面で頑張りたいと思います。また、もう1人、一次産業の支援の方を応募していますが、こちらについてはまだ応募がない状況ですので、今後もですね、引き続きPRを図りながら、隊員の応募について取り組んで参りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

### (議長)

「萩原議員」。

### 「萩原議員」

地域協力隊についてはわかりました。

それでですね、3問目なんで、やっぱり町長も若い訳ですから、やっぱりどんどんその若者たちの輪に入って、やっぱり色々な意見を聞きながらやっぱり行動に移して欲しいと思います。その意見を出し、交流事業において意見を聞くっていう、聞いて、やっぱりそれを早くに実現してほしいと思います。あのそんな中でやっぱり町長はこれからのまちづくりに当然若者が必要と仰っておりましたが、どんな若者を望むというか、そのような何て言ったらいいんですかね、どんなもうただ元気のいいのなのか、本当にそのいい若者なのか、それともやっぱりその何て言うんですかね、地方のそういう振興局とかの若者たちも全部交えた方がいいのか、その辺についてはどう考えますか。ちょっと質問あの。

### (議長)

「町長」。

### 「町長」

今のご質問あのどういう若者を支援すべきかというあのお話だったと思います。

色々な立場の方いらっしゃいますけども、やっぱり一番大事なこの江差を愛する人だという風に思っています。生涯をこの地域で閉じたい、人生をこの江差で完結したいという人を応援していきたい。特にチャレンジ、挑戦する人を後押ししたい、そういう思いであります。以上でございます。

(議長)

はい、いいですか。

「萩原議員」

はい。

(議長)

3問目、次、2問目。

「萩原議員」

はい。

(議長)

「萩原議員」。

「萩原議員」

はい。育てる漁業の推進についてでございます。近年の日本海におけるイカ、スケソウの不漁から、北海道では本年度から漁業における日本海振興策を講じ、獲る漁業から育てる漁業の転換を図っています。江差町でも数年前から漁業者自ら、漁協の荷捌所等を利用し、独自の方法でナマコの種苗を生産、増殖に取り組んでおり、漁業経営の一助になっていることは言うまでもありません。江差町の育てる漁業を一層推進するために、何点かお聞き致します。

江差町における育てる漁業の可能性について、どう考えているのか。また、管内で唯一、中間育成施設を有していないのが江差町であり、これからの漁業形態を考えると、中間育成施設の整備は必要不可欠と考えるが、如何でしょうか。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

萩原議員の2問目にお答え致します。江差町では現在、ナマコの増養殖事業に取り組んでおり、特に養殖に関しては技術の確立に向け、いち早く養殖試験を実施するなど、先駆的な役割を果たしております。また、沿岸資源である、ウニ、アワビの他、日本海海域で栽培魚種として期待されているホヤや、地域特産であるエゾバカガイ等、育てる漁業を展開していく上で期待できる魚種はあると認識しております。近年、回遊性魚種の資源減少や、回遊不振により漁業経営は厳しい状況にあることから、この状況を打開するには、これまで以上に育てる漁業の取り組みが

重要と考えており、町としても引き続き増養殖事業への支援をして参りたいと考えておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

中間育成施設の整備についてでございます。現在、江差町においてはナマコやアワビ、ヒラメなどの種苗につきまして、中間育成を行わず、納入後速やかに放流することで対応しております。この際、より大型の個体を離すことにより、生存率の向上を図ることが可能との観点から漁業者からは更なる大型種苗の購入や、種苗の中間育成に関するご意見を頂いているところであります。町と致しましても、中間育成施設の整備の必要性を重々感じているところではございますが、中間育成施設を整備、運営するには越えなければならない幾つかのハードルがあると認識しております。ひとつは、対象魚種の選定と種苗の購入先の確保です。二つ目は施設の設置や更新、種苗飼育に係るランニングコストなどの費用の工面です。三つ目には施設を運営するにあたり、増養殖技術に精通した技術者の確保が必要であります。また、種苗生産ともなれば、安定的な販売先の確保も必要となります。まずはこれらの問題点について、他町の施設の運営状況に関する情報収集に努め、関係機関と協力しながら、解決の方法を見定めた上で効率的かつ効果的な施設整備について、精査、検討を進めるべきと考えておりますので、ご理解願えればという風に思います。

(議長)

「萩原議員」。

「萩原議員」

今の答弁もありました。また、6月定例会でも栽培漁業に関する事務調査ということで、意見の中にやっぱりナマコに関しては、種苗生産技術は確立されているけれども、いるが、養殖技術の確立にはまだ至ってないということでもございました。また、今、対象のものが何かという部分もありましたが、若い漁師のあくまでも意見なのですからけれども、ソイやメバル、針ものっていうのですかね、それを育てるのではいいのかな、いいのではないかという漁業者の意見がありました。現在、ソイは1キロあたり3千円となっていますので、3千円となっています。またあの、北海道栽培漁業振興公社が、せたなや熊石に事業所があるので、またその方たちの知恵を借りる等、また事業所の誘致という部分も考えてはどうかと思いますが、如何でしょうか。

(議長)

「産業振興課長」。

「産業振興課長」

有効な魚種という部分のご質問でございますけれども、やはり回遊魚でないという部分があるの現在考えている部分の中では大きな観点なのかなという風に思っております。増殖というのは、どちらかというマークっていうのですけれども、増殖だけじゃなくて、養殖の技術、獲って、とり上

げるまで育てると、いう養殖の技術についてもですね、現在、ナマコについてはあの確立に向けてですね、努力をしている所でございます。今言われました、ソイですとかメバルという部分もございますけども、ソイなんかにつきましてもあの一部増殖に向けたですね、取り組みを小規模ですけども現在しているところでございます。

今後も、漁業者の皆さんとですね、協議しながら、どういう魚種がいいのかにつきましても、整理していきたいと思えますし、特にやはり有力な魚種に力を注ぎながらですね、取り組みをしっかりしていきたいなという風に思っております。

養殖、中間育成の施設につきましては、先程町長の方から申し上げたとおり、色々なハードルがまだまだございます。単純に施設を設ければ、そういう魚種が、育つということにはならないと。各施設色々聞くと、色々な悩みを持ちながらですね、運営をされているということを知っております。特に、財政的な問題が、常に後を引いているような状況もございますので、その辺の整備をした上で、江差町としても力を入れていきたいなという風に思っております。以上でございます。

(議長)

いいですか。

「萩原議員」

はい。

(議長)

はい、次、3問目ですか。

「萩原議員」

はい。

(議長)

はい、3問目。「萩原議員」。

「萩原議員」

はい、3問目、最後。はい。最後にあの中学校の部活動についてでございます。平成24年の12月定例会で私はあの同じ質問を致しました。その当時はですね、江差中学校のサッカー部が廃部になったことがあり、今後人数の少ない部活動は、何とか他町内との合同チームで中体連等に、中体連等大会に参加できないかとの趣旨でありました。答弁では、合同チームを結成するその時々各学校の置かれている状況にも左右される、また合同練習の時の移動手段や、課題があるとのことでした。

現在、江差中学校、江差北中学校野球部は合同チームになっているが、今後の団体競技等

の部活動の考えをお伺い致します。

(議長)

「教育長」。

「教育長」

中学校の部活動に関するご質問でございますが、議員のおっしゃる通り、江差町内の中学校の生徒数が減少しております。部活動にも反映し、特に野球であるとかサッカー等、多人数の競技者を必要とする団体競技の部活動に影響を与えており、チーム編成が難しく、休部や廃部となったものもある訳でございます。

ご指摘の野球部についてでございますけれども、3年生が抜けた現在、江差中学校が8人、江差北中学校が7人という現状で、試合が成立する9人に満たないため、上ノ国中学校に現在4人の部員がいるため、江差中学校と江差北中学校に上ノ国中学校からそれぞれ2名ずつ入って秋のローカル大会に出場するため、合同でチームを組んでおります。平日の練習はそれぞれの学校において行い、土日に合同で練習をし、大会に出場しているというのが現状でございます。今回の合同チームにつきましては、秋のローカル大会に出場するためだけの一時的な、一時的な措置でございまして、来年度以降につきましては、江差中学校、江差北中学校、両校とも単独で部員が揃う見込と伺っているところでございます。

現在ある競技団体の部活動は、江差中学校が野球部、バスケットボール部、女子バレー部、北中学校が、野球部と女子バレー部、卓球もございますけれども。教育委員会としては、全ての子どもたちが好きなスポーツ部での活動ができるよう、一層環境を作ってあげたいと思っておりますけれども、生徒数の減少や子どものスポーツ離れ等が進むと団体競技において、人数が揃わない種目も出てくる可能性もある訳でございます。そのような場合、学校が主体的に部活を求めるとか、保護者の理解も頂きながら、町内校はもとより、部員不足が生じている町外の学校との色々な条件を整えば、合同チームを結成することについて、積極的に色々な面で支援をして参りたいとこのように考えておりますので、ご理解を頂ければと思います。

(議長)

はい、「萩原議員」。

「萩原議員」

答弁はわかりました。それでですね、今年に入ってから、小学校が卒業してからサッカーを続けられないという、あの、ということで、江差町と上ノ国ですかね合同になってクラブチームが出来ました。そういう部分に関しては、24年度の答弁にあったように、地域と共にコミュニティスクールを目指すとの一部なのではないかなと考えております。なかなかそういうクラブチームには、もなんですけれども、何とかそういう支援、支援策というのがあるのかどうか、1点ですね、その分に関

してありますか、1点。宜しくお願いします。

(議長)

「学校教育課長」。

「学校教育課長」

サッカーの件についてでございます。現在、スポーツ少年団に加盟してコラソンFCアンダー15というチームを、江差中学校の1年生3名と上ノ国中学校3名の6名が加入しているのは承知してございます。来年度には江差と上ノ国小学校4人ずつ入って11人をオーバーするというので試合が出来るような状況になるという風にも伺っております。中学校にはサッカー部が無いんですね、たぶんあのクラブチームでそのままあの継続していくということになると思うんですが、あの中体連の試合の場合は、うちの方で町として生涯学習バスや福祉バスの方の交通手段については利用している訳でございます、同様にあのこのコラソンアンダー15につきましては、江差町スポーツ少年団の方に加盟してございますので、これ社会教育課の方の担当になろうかとございますが、公式試合等についてはですね、町有バスの利用が可能となりますので、バスの空き具合にもよりますが、中体連同様の対応をして参りたいという風に思っておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

いいですか。

「萩原議員」

はい、いいです。

(議長)

はい、以上で、萩原議員の一般質問を終わります。